

## 国民生活基礎調査の解析による高齢者の要介護認定の実態に関する研究

研究分担者 石崎達郎 東京都健康長寿医療センター研究所 研究部長  
研究協力者 涌井智子 東京都健康長寿医療センター研究所 研究員  
研究協力者 光武誠吾 東京都健康長寿医療センター研究所 研究員  
研究代表者 田宮菜奈子 筑波大学医学医療系ヘルスサービスリサーチ分野 教授  
筑波大学ヘルスサービス開発研究センター センター長

### 研究要旨

本年度は要介護認定を受けていない高齢者の生活実態、身体・認知機能の状況を、国民生活基礎調査の個票データの解析から明らかにし、高齢者の介護保険利用について考察した。65 才以上の高齢者で「手助けや見守りを要する」と回答した 23,466 名を「支援が必要な高齢者」と定義し、これら的高齢者のうち要介護認定を受けていないものは 31.5%、認知症状があるもので認定を受けていないのは 11.5%、日常生活の自立の状況がかなり低い「日中もベッド上での生活が主体である」ものにおいて認定を受けていないものも一割程度いるなど、支援が必要な高齢者の中に介護保険認定を受けずに生活をしているものの実態が明らかとなった。

### A. 研究目的

本研究は 65 歳以上の高齢者で「手助けや見守りを要する」と回答した支援が必要な高齢者における、生活実態、身体・認知機能の状況を明らかにし、介護保険利用の実態を把握することを目的とした。

### B. 研究方法

2016 年国民生活基礎調査の世帯票・健康票を用いて、65 才以上の高齢者で「手助けや見守りを要する」と回答した 23,466 名を「支援が必要な高齢者」と定義し、要介護認定の実態、および認定の関連要因を検討した。

（倫理面への配慮）

東京都健康長寿医療センター研究所倫理委員会の承認を得て実施した。

### C. 研究結果

支援を必要とする高齢者のうち、要介護認

定を受けていないものは 31.5%であった。一方、認知症状があるもので認定を受けていないのは 11.5%、日常生活の自立の状況が「日中もベッド上での生活が主体である」ものにおいて認定を受けていないのは 9.2%となっていた。要介護認定の有無を従属変数とするロジスティック回帰分析を行ったところ、身体・認知機能を調整しても、年齢の低いもの（オッズ比 0.96,  $p<0.001$ ）、配偶者のいない子どもが同居している場合（オッズ比 0.72,  $p=0.01$ ）、また人口規模の小さな市群（オッズ比 0.78,  $p<0.001$ ）において、統計的に有意に要介護の未認定と関連していた。

### D. 考察

本研究は、解析対象を支援が必要な高齢者に限定することで、同程度に支援を必要とする高齢者における要介護認定の実態の把握、およびその関連要因を検討した。身

体・認知機能が低下するにつれて、要介護認定を受ける割合が増加していた一方で、高齢者の身体・認知機能と実際の要介護認定との間には乖離があり、支援を要する状況にあっても要介護認定を受けていないものが一定数いることが明らかになった。日常生活の自立状況別に見ても、ADL に介助を要し、一日中ベッドで過ごす/ベッド上での生活が主体であるものにおいて、2割近くが要介護認定を受けていない状況が示唆された。また認知症があっても、認定を受けずに生活をしているものが同1割程度いることが明らかになった。地域在住の高齢者が、自立状況が著しく低下しているような状況にあっても要介護認定を受けていないこれらの状況において、十分な介護を受けられているのか、或いは介護を担うものが荷重の負担を担っていないかなど、公衆衛生上の観点からもさらなる検討を要する課題である。

## E. 結論

本研究は、我が国において代表性のある国民生活基礎調査を用いた解析であり、支援を必要としている高齢者において、要介護認定の状況がどの程度異なるか、また要介護認定を規定する要因が本人の身体・認知機能状況に加えて、家族の状況、居住地であることを示した。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

1) Tomoko Wakui, Suguru Okubo, Nanako Tamiya, Taeko Watanabe, Tatsuro Ishizaki, Ichiro Kai. (2019). Do the Presence of Adult Children and their Marital Status Matter for Access to the Public Long-term Care System? Gerontological Society of America 2019

Annual Scientific Meeting. Austin, Texas, USA. November. 13-17, 2019.

## G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし